

2021年度（令和3年度）の事業報告書
2022年10月1日から2023年9月30日まで

特定非営利活動法人コースター

1 事業実施の方針

①社会的課題の解決に取り組む人材を育成する事業

○こおりやま広域圏スモールスタート支援事業

こおりやま広域圏で地域課題の解決に取り組む個人・企業・団体のプロジェクトを、多様な支援者によるプラットフォームをつくりつつ、伴走型で支援を行った。

前年度に引き続き、第4期（2022年3月）まで行い。採択者19件の事業計画の作り込み支援、助言者・伴走支援者とのマッチングした。

○高校生・大学生向け事業

高校生事業は、昨年度に引き続き、郡山圏内の私立高校2校と共に各学年の探求学習の企画と授業を受け持ち、200名弱の高校生に対して、地域と協働を行うプロジェクト形成の支援を行った。また、他の探究学習を行う高校の生徒との交流企画や県内の経営者と生徒を進路講和の形でマッチングするセミナーも実施した。

大学生事業は、昨年度に引き続き、次世代の福島を担うプレーヤーとしてインターンシップという手法を用いながら、福島県の企業やNPOなどの経営者と大学生のマッチングを行い、10社23名のマッチングを行った。また、インターン経験者2名が受入企業に就職（新卒入社1名、転職1名）するなどのインターンシップ終了後でも継続的な関係性構築の支援にもつながった。

②地域社会の変革を促進するための社会的基盤を整備または強化する事業

○コミュニティスペース事業

昨年度に引き続き、福島コトひらくにて、コワーキングスペース、シェアオフィス、イベントスペースの貸出を行う。昨年は新型コロナウイルスの影響で、シェアオフィスの貸出が減り、シェアオフィス3社となった。その一方でコワーキングスペースのニーズが増大し、月額コワーキング会員が10団体以上の登録があった。

また、郡山市のアクセラレーター養成プログラムを実施している事業者やふくしまベンチャーアワードの受託業者と連携し、事業創出支援で2社の支援を行った。

○復興支援事業

避難指示解除後における富岡町・川内村での交流人口の増加と同村で活動する若手プレーヤーが活動できる現場づくりの創出を通して、復興に寄与するとともに当団体の理念達成を目指し、昨年度同様、東北大学とふたば未来学園高校の協力の下、被災した高校生の震災体験と今後のチャレンジを大学生がインタビューしたアーカイブ冊子を作成した。

その他、富岡町での空き地を利用したマルシェイベントを企画・実施し、住民と移住者、避難者の交流・きっかけづくりを行い、参加事業者 29 団体、来場者数のべ 3000 名の参加があり、非常に反響があった。

また、休眠預金を活用して、福島県の県中地域の復興公営住宅の実態を調査し、今後の支援活動やプレーヤー同士のマッチングを図り、4 団地の支援活動とこおりやま広域圏の復興公営住宅の住民合同の夏祭りなど、7 回のイベントを行い、約 200 名の住民の支援と郡山市民 400 名の参加があった。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施予定日時 (B) 当該事業の実施予定場所 (C) 従事者の予定人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 予定人数	事業費の 予算額 (単位：千円)
1 社会的課題の解決に取り組む人材を育成する事業	こおりやま広域圏モデルスタート支援事業	(A) 随時 (B) こおりやま広域圏 (C) 0.6 人	(D) 採択プロジェクト 20 件 (E) D の関係者と受益者	5,500
	高校生・大学生向け事業	(A) 随時 (B) 郡山・石川町 (C) 3 人	(D) 郡山・石川の高校生 400 人 全国の大学生 30 人	9,000 (R3 絆 430、R4 絆 250 R3 計算、120、R4 計算 100)
2 地域社会の変革を促進するための社会的基盤を整備または強化する事業	コミュニティスペース運営事業	(A) 通年 (B) 福島コトひらく (C) 1.2 人	(D) 利用者 (E) 月極めコワーキング・オフィス：10 件、都度利用者のべ 1000 人	5,156
	復興支援事業	(A) 随時 (B) 県中地域、富岡町・川内村・広野町 (C) 4 人	(D) 県中地域、双葉郡内 (E) 10,000 人	14,000 (心の復興 2,500 マルシェ 5,000 休眠 65,

				000)
--	--	--	--	------